

平成24年ホヤ類調査結果速報 No. 6

平成24年11月2日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

協力機関：渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

10月9日～22日に、噴火湾沿岸各地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 調査を行った全地区でヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1、2）。
- 伊達地区（上中層）、森地区（下層）、長万部地区（中層）で、ホタテガイ1枚あたりの平均付着重量が50gを超えています（図1）。これらの地区では、貝洗いの実施、あるいは、早めの出荷等の対応を検討してください。
- 八雲地区（下層）、落部地区（下層）では、付着重量に対して、付着個体数が多く、体長20mm未満の小型個体の占める割合が高くなっています（図1、2、3）。これらの地区では、今後、付着重量が増加すると考えられます。漁期後半の出荷および3年貝としての出荷を考えている場合は、貝洗い等の対応を検討してください。
- その他の地区では、付着量（重量、個体数）が比較的少ない状況です（図1、2）。しかし、同じ地区内でも、ヨーロッパザラボヤの付着量には、ばらつきが見られます。管理している施設の状況把握に努めて下さい。
- 過去、3年のデータと比較すると、平成24年の全湾的な付着状況は、平成23年と同レベルだと見られます（図4）。ただし、年によって付着量の多い地区が変化するため、地区ごとの付着状況に応じた対応が必要だと考えられます。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL:0138-57-6074 FAX:0138-57-5991

耳吊りホタテガイ付着物調査

〔調査月日：10月9日～22日、調査地区（伊達、虻田、礼文、長万部、八雲、落部、森、砂原、鹿部）〕

ホタテガイを1連から上層、中層、下層ごとに5～10枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いた観察により、付着物の識別、採取を行いました。付着物重量の測定は全てのサンプルで、ヨーロッパザラボヤ個体数の計数および体サイズ測定は各層3～5枚で行いました。

1) 付着重量と付着個体数

付着量（重量）は、伊達地区（上中層）、森地区（下層）、長万部（中層）で多い結果でした（それぞれ平均103.8、69.6、75.6、54.5g/枚）（図1）。付着個体数は、八雲地区（下層）、伊達地区（上層）、森地区（下層）、落部地区（下層）、で多い結果でした（それぞれ平均48.7、34.8、33.3、31.7個体/枚）（図2）。

図1 付着生物調査結果（平成24年10月9日～22日）

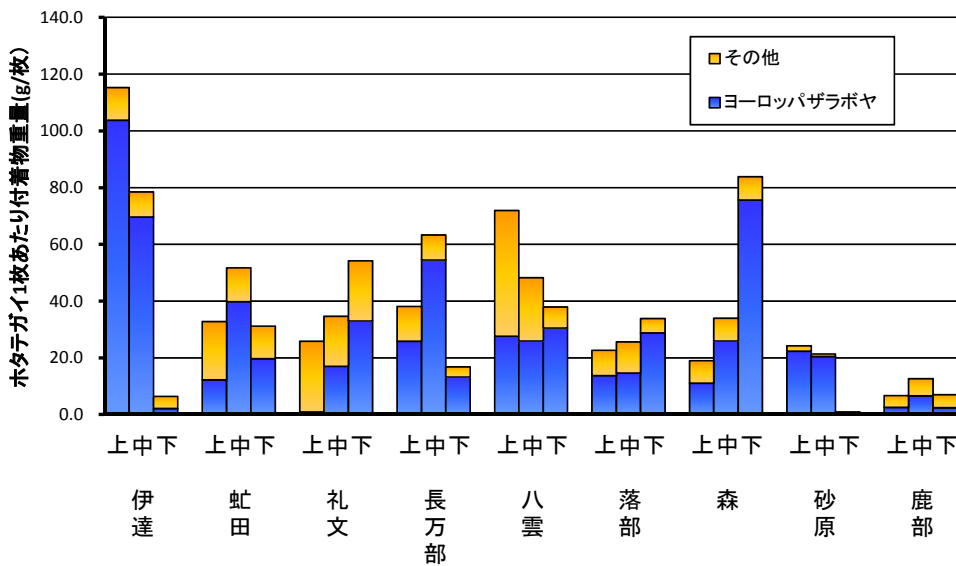
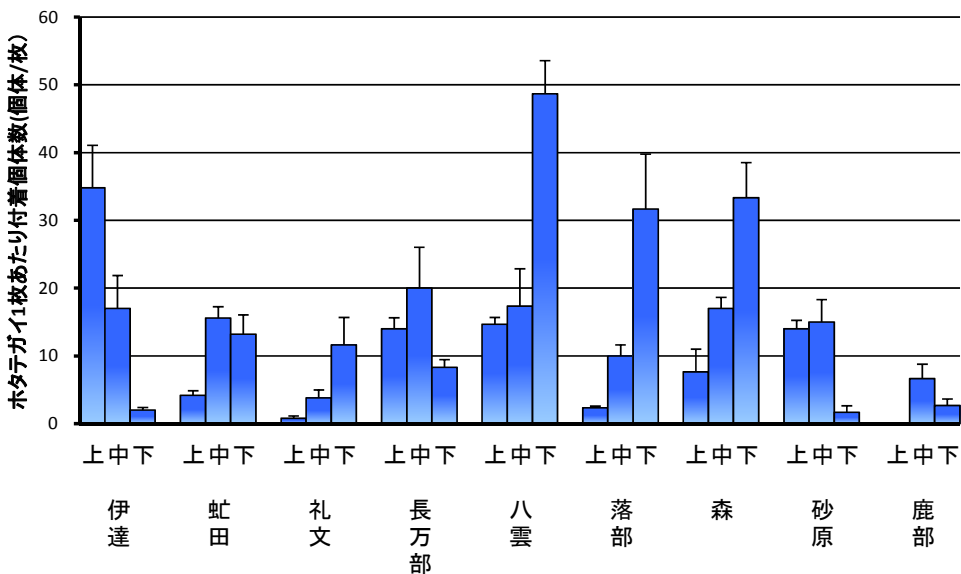


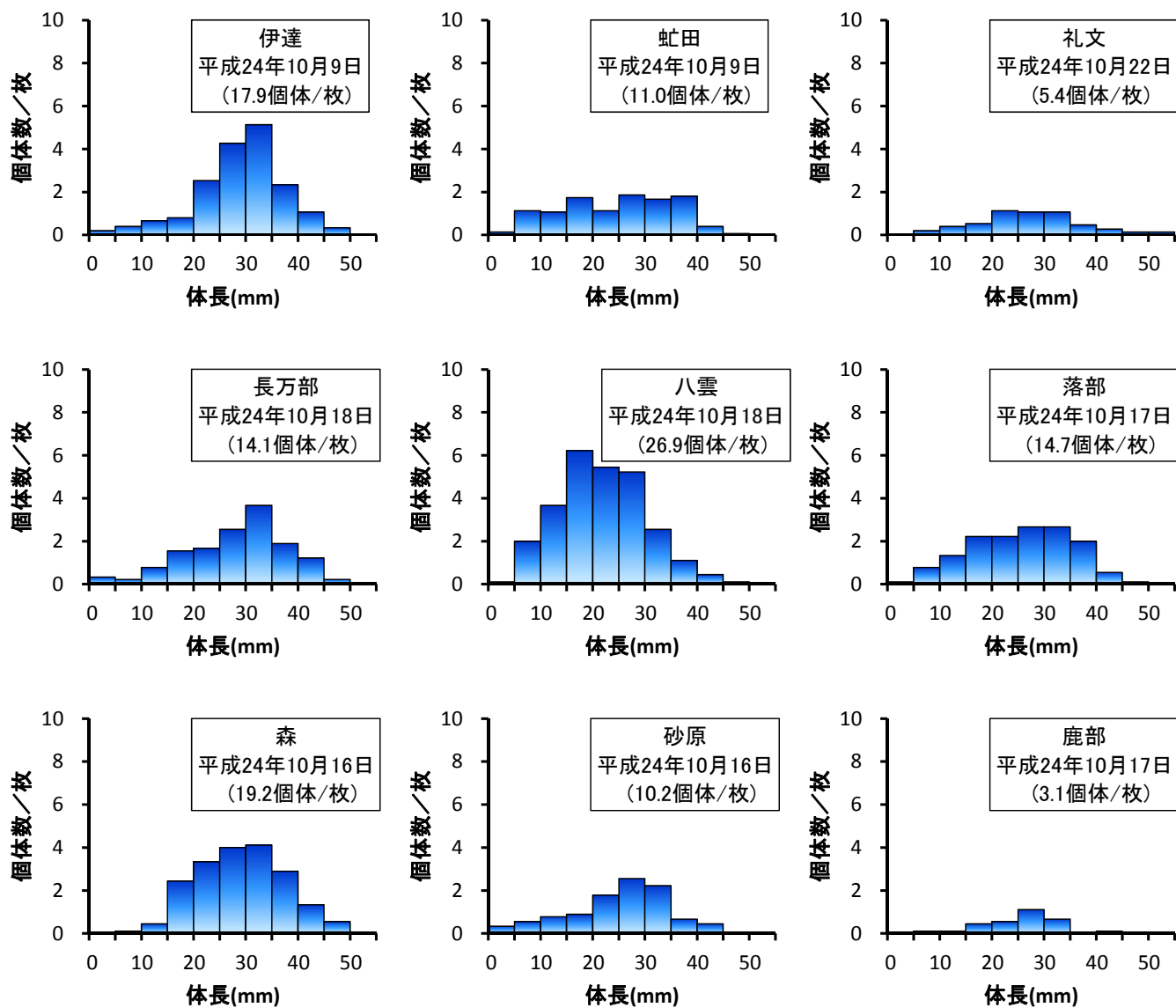
図2 ヨーロッパザラボヤの付着個体数（平成24年10月9日～22日）



2) サイズ組成

サイズ組成は、概ね 25~35mm の個体が中心となっています（図3）。八雲、虻田、落部地区では、20mm 未満の占める割合が高く（それぞれ 44.6、37.0、30.3%）、比較的小型個体が多い状態です。

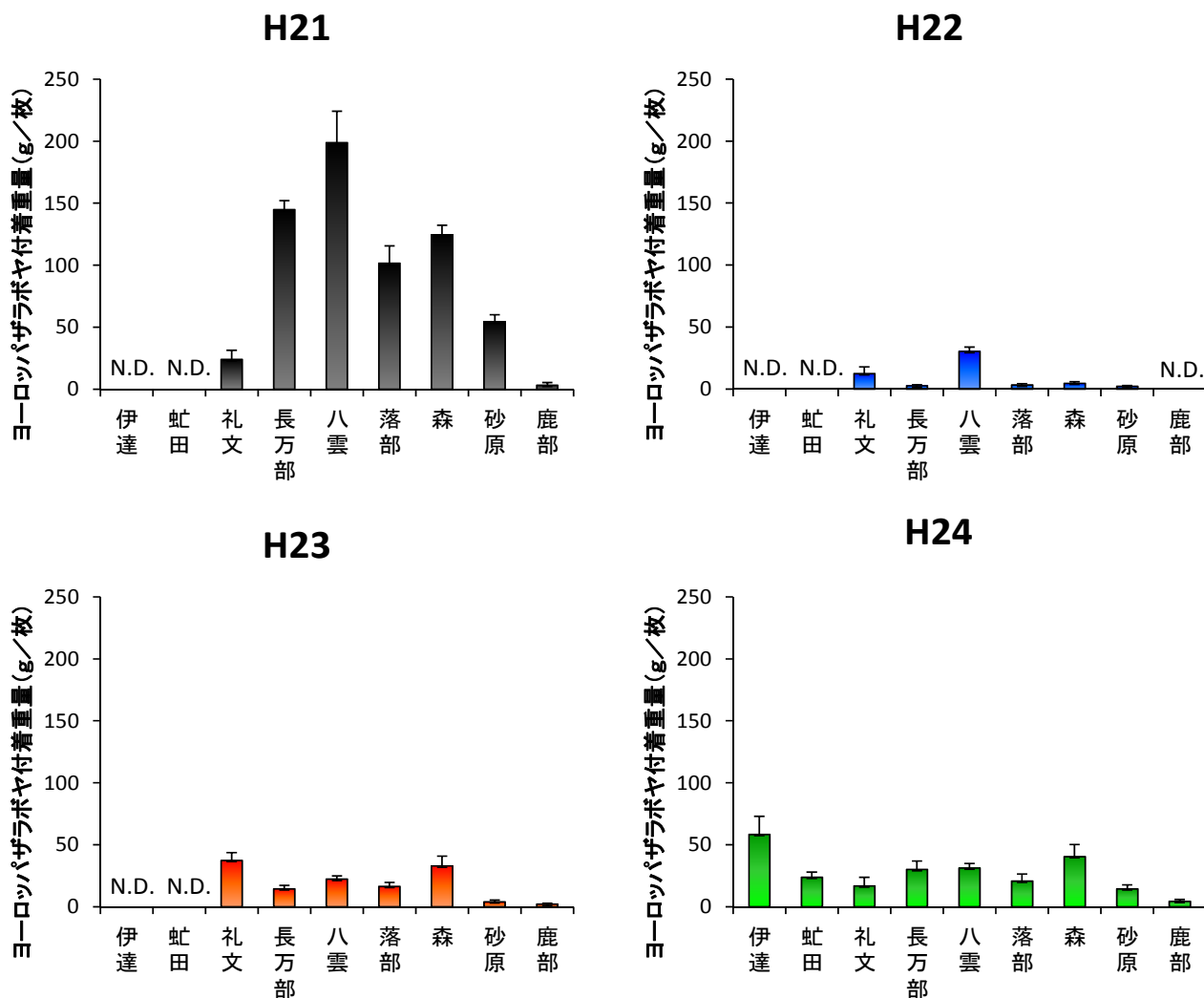
図3ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（平成24年10月9~22日）



3) 付着重量（10月）の経年比較

平成21年は、6月上旬からヨーロッパザラボヤの付着が本格化しました。付着個体数が多く、付着重量の増加も早かったため、渡島側湾奥部（長万部～砂原地区）で広域的に深刻な漁業被害が発生しました。一方、平成22年以降は、付着の本格化が7月上旬以降となり、全湾的に付着個体数は減少し、付着重量の増加も遅くなっています。それでも、毎年、局所的に付着量の多い地区が見られ、問題化しています。平成24年の全湾的な付着重量は、平成23年と近いですが、地区により付着状況は異なるため、地区の状況に応じた対応が必要だと考えられます。

図4 ヨーロッパザラボヤ付着重量の経年比較（平成21年～平成24年）



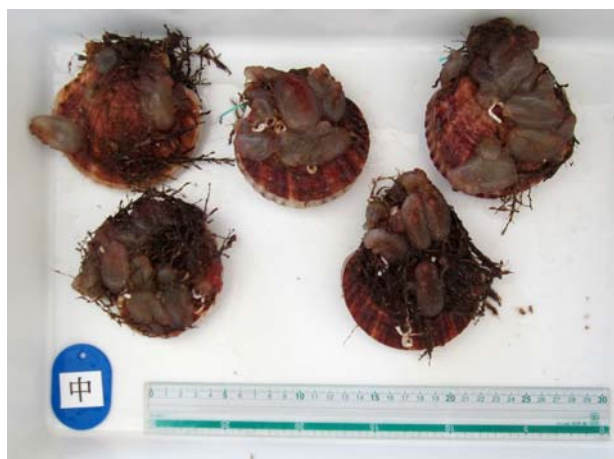
（調査期間：平成21年9月28日～10月27日、平成22年10月12～18日、平成23年10月6～19日、平成24年10月9日～22日）

（参考）噴火湾の「ザラボヤ」について

平成20年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ（通称「ザラボヤ」）は、ヨーロッパザラボヤという外来種であることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法については、北海道立総合研究機構水産研究本部 HP (<http://www.fishexp.hro.or.jp/>) に公表されている以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体－外来種ヨーロッパザラボヤ－（試験研究は今 No.707）
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について（北海道水産試験場研究報告 81：151-156）

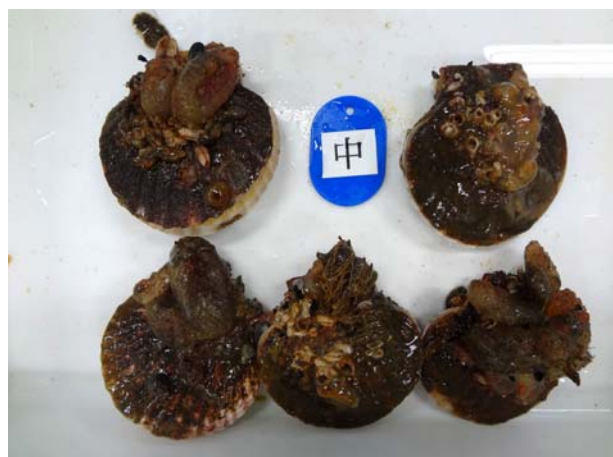
4) 各地区付着状况



伊達地区 (中段)



虻田地区 (中段)



礼文地区 (中段)



長万部地区 (中段)



八雲地区 (中段)



落部地区 (中段)



森地区 (中段)



砂原地区 (中段)



鹿部地区 (中段)